

# いわてジャーナル

岩手県広報誌

2019  
3  
月号



特集

震災から8年 より良い復興へ

復興を力強く進め、  
新しい三陸を創造しよう

三陸鉄道株式会社運転士

たもがみなつみ

田母神夏美

うつのみやせい

宇都宮聖花

さん(右)

さん(左)

# 復興を力強く進め、

# 新しい三陸を創造しよう

新しい校舎で平成30年度第3学期を迎えた陸前高田市立仙仙小学校4年生の皆さん。

**復興を力強く進め、全国、世界に復興の姿を発信する1年に**

3月11日、東日本大震災津波から、8年が経ちます。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の誠を捧げます。また、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。そして、県内外から復興を支援してくださっている大勢の皆さまに、深く感謝いたします。

昨年は、被災した全ての県立病院や公立学校施設の復旧が完了するなど、暮らしの再建が進展したことに加え、宮古港と室蘭港を結ぶ本県初となるフェリー航路が開設されました。また、復興道路等の整備と併せて、岩手と台湾や上海を結ぶ国際定期便が就航するなど、新しい交通ネットワークが広がり、観光や経済などさまざまな交流を深めることができました。

復興の実感が着実に広がりつつある一方で、まだまだ多くの方々が応急仮設住宅等で不自由な生

活を送られています。暮らしの再建や心と体のケアなどの被災者支援農林水産業や商工業の振興など、三陸地域の将来を展望しながら、復興の取り組みを力強く進めていきます。

また、今年には三陸鉄道リアス線の開業や、三陸防災復興プロジェクト2019の開催、東日本大震災津波伝承館の開館、ラグビーワールドカップ2019(TM)の開催など、岩手・三陸が大きな注目を集めます。国内外へ東日本大震災津波の教訓や復興の姿を強力に発信していきます。

これからも、「誰一人として取り残さない」という理念の下、被災者イコール復興者一人一人が復興を果たすことができるよう、お互いに支え合いながら取り組みを進めていきましょう。

岩手県知事 **達増拓也**

# ちんこきょうだいの いわての とってよき!

魅力わんこ盛りのいわてから、いいもの、面白いものをよりすぐり。毎回わんこきょうだいがナビゲートします。

今月のテーマ  
震災の教訓を伝える  
乾燥フルーツ

## 震災経験が開発のヒントに

震災の時は、水や加熱が必要な非常食が食べられなかったり、果物などのビタミンを取ることが難しかったんだって。その経験から開発されたのが、この「乾燥フルーツ」なんだ。

## 食の教訓を伝えて恩返しを

原料は、陸前高田市の「米崎りんご」。乾燥によって栄養価がアップするし、長く保存できるから非常食にぴったり。震災の“食の教訓”を形にすることで、感謝の思いを伝えているんだって。

## おやつに携帯できる非常食

いざというときにそのまま食べられるように、携帯しやすい1個パックになっているんだよ。バッグに入れておけば、おやつにも非常食にもなるから安心して出掛けられるね。

いざという時にも  
水なしで食べられる  
「タイ常備食!」



©わんこきょうだい



写真は、陸前高田市の「一般社団法人乾燥フルーツCome Come(かむかむ)」の「Come Come習慣」。1箱4袋(10g/袋)入り。厚めの輪切りで、かみ応えがあるので、少量でも満腹感を得ることができます。

## 今月の表紙



宇都宮さんは宮古市出身で2016年に三陸鉄道入社。田母神さんは秋田県出身で2017年入社。共に女性運転士として活躍中。

震災直後から地域を支えてきた三陸鉄道。運行の要となる29人の運転士の中で、現在、2人の女性運転士が活躍しています。

一人は、宮古市出身の宇都宮聖花さん。首都圏の鉄道会社に勤務した後、ふるさとの力になりたいと三陸鉄道に入社。運転士になる夢をかなえました。

もう一人の田母神夏美さんは、秋田県出身。岩手大学を卒業後、大好きな鉄道の世界で働きたいと入社を決めたと言います。

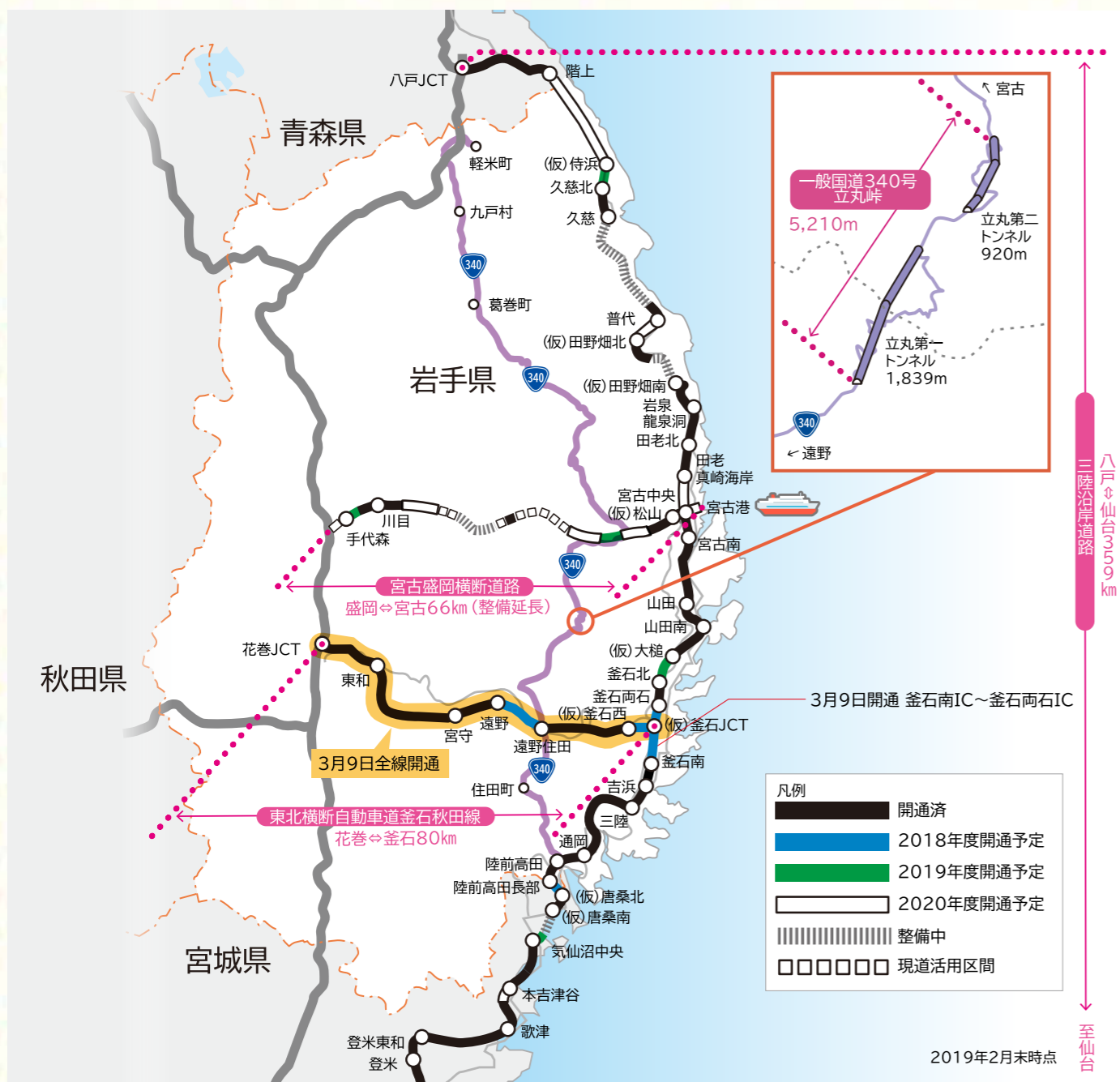
運転士として二人が一番心掛けているのは、乗客を

安全に運ぶこと。「三鉄はワンマン運転ですから、トラブルがあっても頼れるのは自分だけ。常に緊張感を持って運転しています」と田母神さん。

また、宇都宮さんは「お客さまとの距離が近いのが三鉄の良さ。顔なじみのお客さまも多いですし、お年寄りの方が降りる時は荷物を持ってサポートすることもあります」とこり。

三陸鉄道は、3月23日、新たな節目を迎えます。復旧するJR山田線の宮古〜釜石間が経営移管され、盛久慈間が一つのレールでつながるのです。その距離は163キロ、新しい路線名は「リアス線」。

二人は「これを機に多くのお客さまに足を運んでいただきたい」と、三陸鉄道の新たなスタートに期待を膨らませています。



県内の復興道路等は無料で通行できます(東和～花巻間を除く)。

三陸鉄道「リアス線」運行開始

**リアス線 163km 一貫運行**

震災で被災し不通となっていたJR山田線の釜石～宮古間の復旧工事が完了。JR東日本株式会社から経営移管され、三陸鉄道「リアス線」として開業します。盛～久慈間、全長163kmが一つのレールでつながり、第三セクター鉄道としては日本一長い鉄道になります。被災した5つの駅舎が再建され、新たに、宮古市に、八木沢・宮古短大駅と弘川駅が設置されます。

一般国道340号「立丸峠」工区全線開通

遠野市と宮古市をつなぐ一般国道340号「立丸峠」工区が、昨年11月に全線開通。国道340号は、震災で後方支援の拠点となった遠野市から沿岸被災地への自衛隊や消防の派遣、物資輸送で大きな役割を果たしました。一方、道幅が狭く、急カーブと急勾配が続き、冬季には雪崩による通行止めが度々発生するなど交通の難所と言われていました。今回の開通により、危険箇所が解消され、遠野～宮古間の移動距離が約4km、時間が約6分短縮。広域的な防災力の強化や観光の活性化が期待されます。



昨年11月に行われた開通式典の様子

宮古・室蘭フェリー航路開設

宮古港と北海道室蘭港を結ぶ、岩手初のフェリーが昨年6月に就航。観光での利用のほか、復興道路等の開通や降雪量が少ない沿岸の気候もあり、貨物トラックの利用も期待されます。北海道との観光・物流ルートを選択肢が増えたことで、物流関連をはじめ製造業や観光などさまざまな産業の活性化につながる事が期待されます。

東北横断自動車道釜石秋田線開通

3月9日に、花巻市と釜石市をつなぐ全長約80kmの「東北横断自動車道釜石秋田線(釜石自動車道)」が全線開通し、内陸と沿岸が初めて高速道で結ばれます。ガントリークレーンの整備などによりコンテナ取扱量が増加している釜石港が、内陸とつながることによる物流の効率化をはじめ、復興のさらなる加速が期待されます。

三陸沿岸道路釜石以南が開通

沿岸を南北につなぐ三陸沿岸道路は、かつてないスピードで整備が進められています。3月9日には、釜石南IC～釜石両石ICの14.6kmが開通し、それまでの開通区間と合わせ、陸前高田市から釜石市までの54.8kmが全線開通します。2019年度には、釜石北IC～大槌ICが開通し、陸前高田市から宮古市までが一つにつながります。

応援職員インタビュー

道路の改良工事で復興を支援する！

沿岸部と内陸部をつなぐ国道340号は、復興を進める上で重要な道路です。しかし、陸前高田市と住田町の間には位置する山谷地区は、大型車両が通るには道幅が狭く、道路の冠水被害も発生していました。そこで、道幅を2車線に広げ、かさ上げする工事と新しいルートに道路をつくる工事を行っています。

この整備に携わっているのが、群馬県から派遣された林直文さん。学生時代を岩手で過ごした縁もあり、技師としての経験を「岩手の復興のために生かしたい」と、昨年4月に着任しました。「川沿いの道路のため自然環境に配慮しながら工事を進めてきました。工事が完了すれば物流はもちろん、産業の活性化に役立つはず」と林さん。山谷地区の道路改良工事は、3月末に完了する予定です。



震災後、定期的に岩手を訪れ、復興の様子を見守ってきたと話す大船渡土木センターの林直文さん。

### いわての復興教育

県では、震災の経験や教訓を踏まえた活動に取り組むことで、ふるさとの誇りと愛着を育む「いわての復興教育」に力を入れています。1月には、県内の児童・生徒の復興教育での取り組みを発信する、児童生徒実践発表会を初めて開催しました。

当日は8校の小・中・高校・特別支援学校が集まり、被災地見学、避難所運営や炊き出し体験、三陸鉄道の「震災学習列車」を活用した学びなど、それぞれの学校の取り組みを発表。参加した子どもたちは、他校の発表に熱心に耳を傾けながら、学びを深め合っていました。

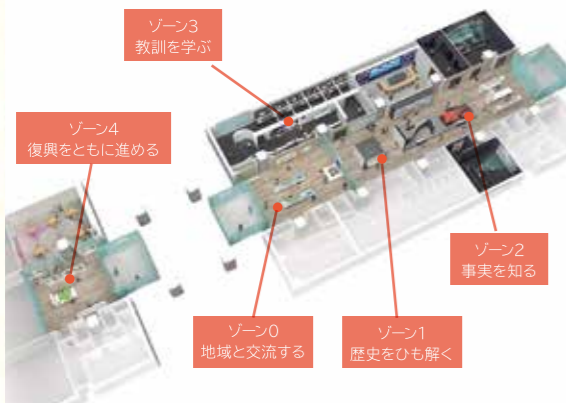


岩手県民会館で行われた発表会で学習の成果を披露する子どもたち。

### 事実・教訓の伝承

#### 東日本大震災津波伝承館

県では、震災の事実と教訓を次世代に伝えるため、陸前高田市で整備が進む「高田松原津波復興祈念公園」内に「東日本大震災津波伝承館」を建設しています。館内には、三陸の自然災害の歴史、東日本大震災津波の事実、震災から得た教訓などを学ぶことができる展示ゾーンを設置。また、震災に関わる教材制作や人材育成にも取り組んでいきます。



9月ごろ完成予定の伝承館展示イメージ

#### いわて震災津波アーカイブ～希望～

県では、20万点を超える震災資料を検索・閲覧できる「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を公開しています。このアーカイブは、膨大な資料を6つのテーマに分類し、テーマごとに伝えたい経験や教訓を整理。他にも岩手日報社の新聞記事の閲覧や、教育、防災活動などの目的に合わせたコンテンツを活用できます。ぜひご利用ください。



いわて震災津波アーカイブ～希望～ 検索

### まちびらきイベント開催

大船渡市では昨年4月、大船渡市防災観光交流センターの落成に合わせて「第3期まちびらき」が開催されました。また、陸前高田市でも9月に「まちびらきまつり」を開催。両市ともに、復興が進むまちの姿を発信し、市民と喜びを分かち合いながら、全国からの支援に感謝を伝えました。



大船渡駅周辺地区第3期まちびらきの様子



陸前高田市まちびらきまつりの様子

### 道の駅「たろう」オープン

2016年から仮営業をしていた宮古市田老地区の道の駅「たろう」が、昨年4月にグランドオープンしました。被災された方が再建した食堂や産直、餅店など、施設も充実。新たな観光拠点と地域の復興の核として、にぎわいの創出が期待されています。



多くの人でにぎわう道の駅「たろう」

### 災害公営住宅の整備

県が沿岸部に整備していた災害公営住宅2,595戸が、3月末で全て完成します。県は、内陸の4市(盛岡・北上・一関・奥州)にも251戸を整備しています。



昨年9月、盛岡市内に整備された県営備後第1アパート9号棟

### 被災地ふれあい運動教室

震災後、暮らしの環境変化に伴い、閉じこもりがちになり、生活不活発病にかかる高齢者が少なくありません。このため、県では新しいコミュニティでの生きがいづくりや健康づくりをサポートする「ふれあい運動教室」を開催しています。教室では、岩手県レクリエーション協会の講師の指導で、ゲームや簡単な体操を楽しみ、お茶を飲みながらふれあいを広げています。



高齢者の交流の場にもなってる運動教室の様子

### 公立学校校舎の復旧

昨年12月に、陸前高田市立気仙小学校の校舎が完成しました。これにより、震災で被災した沿岸部の公立学校86校の校舎が全て復旧しました。



高台に再建された気仙小学校

ものづくりの楽しみが広げる  
世代を超えた交流の輪。

みんなの力で  
**復興 スタadium!**



「多くの人との交流が楽しい」と話す「野田村だらすこ工房」のメンバー。左から2人目が、代表の大澤継彌さん。

**野田村だらすこ工房（野田村）**

「ここに集まってものづくりをしませんか、と声を掛けたのが始まりです」。「野田村だらすこ工房」代表の大澤継彌さんは、趣味の木工を楽しむため整備してきた山小屋を利用して、仮設団地で時間を持て余していた同年代の男性たちの居場所をつくることを思い付きました。

木工工作に励むメンバー5人のもとに、太陽光発電の導入を支援するNPO法人から太陽光発電所を造らないかと提案があったのは、震災の翌年。最初は戸惑いましたが、土木や建築の経験、電気配線の知識など、それぞれの得意分野を生かしてパネルを支える架台を設置し、2013年6月に「野田村だらすこ市民共同発電所」を稼働させました。

発電所の開設を機に、工房には学生などの見学者が集まるようになりました。中でも、これまでつながる機会がなかった若い世代の考えに触れ、「野田村の将来を担う子どもたちの後押しもしていきたい」と、思いを新たにすメンバー。工房が世代を超えた交流の拠点となることを願っています。

**ソーラー工作教室**

太陽光発電システムを工作で学ぶ「ミニソーラーハウス工作教室」。全国から訪れる見学者への体験指導のほか、小中学校で出前授業も行っています。



**太陽光発電所**

一般家庭約30世帯分の消費電力に相当する量を発電し、全て売電しています。建設費用を返済し、売電で得た収入で、村に貢献したいと話します。



**野田村パズル**

村のシンボルなどをくり抜いた木製パズルは、伐採された木を材料に製作したもの。村内の新生児にプレゼントされています。



**特集**

震災から8年 より良い復興へ

未来のための伝承・発信

**「釜石鶴住居復興スタジアム」完成**

昨年8月、ラグビーワールドカップ2019™日本大会の試合会場となる「釜石鶴住居復興スタジアム」のオープニングイベントが行われました。



メモリアルマッチ「釜石シーウェイブスRFC VS ヤマハ発動機ジュビロ」の様子

完成したスタジアム



当日は、多くの市民がお祝いに駆け付け、ゲストを招いての華やかなセレモニーや、こけら落としとなる釜石シーウェイブスRFCとヤマハ発動機ジュビロによるメモリアルマッチが開催されました。試合前には、釜石高校2年の洞口留伊(ほらぐちるい)さんがキックオフを宣言し、ふるさとへの想い、ラグビーへの想い、そして釜石を支援してくれた人々への感謝の気持ちを伝えました。



震災当時、鶴住居小学校3年生だった洞口留伊さんによる、「未来への船出」と題したキックオフ宣言

**三陸防災復興プロジェクト2019**

復興に取り組む地域の姿を発信し、震災の記憶と教訓を伝える「三陸防災復興プロジェクト2019」が、6月1日から8月7日まで開催されます。その一環として、「かまいし絆会議」(釜石市内の小・中学生)と三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会が取り組んでいるのが、復興支援への感謝の気持ちを表すホタテモザイクアート「ありがとう貝画」の制作です。

これは、絵柄のデザインも作品づくりも子どもたちが手掛ける大作。6月から釜石鶴住居復興スタジアムの敷地内に展示されます。子どもたちの想いがいっぱい詰まった作品で、国内外からお客さまをお迎えします。

三陸防災復興プロジェクト2019の概要やイベントの詳細はホームページでご案内しています。



三陸産のホタテの貝殻に色付けして、モザイクアートを作る「かまいし絆会議」の子どもたち。

？ ご存じですか？

いわて希望チャンネル放送中！

県では、ニコニコ生放送というインターネットサービスを活用して、知事が生出演し、復興の状況や岩手の魅力を発信する生放送番組「いわて希望チャンネル」を月に1回程度放送しています。番組では、視聴者からのコメントにリアルタイムで応えながら、岩手の旬な情報をお伝えしています。ぜひご覧ください。

いわて希望チャンネル  検索

[問]県庁広聴広報課 019-629-5283

県の機関の休日について

天皇の即位の日(5月1日)と即位礼正殿の儀が行われる日(10月22日)は、県庁、県の各地区合同庁舎、警察の運転免許関係業務などは休みになります。詳しくは、ご利用になる各機関にお問い合わせください。

使用しない自動車の抹消登録

自動車を譲ったり、下取りに出した場合や壊れて使わなくなった場合は、運輸支局で移転または抹消の登録をしてください。抹消登録をすると、納めた税金のうち、抹消の翌月からの月割り分に応じた還付が受けられます。自動車販売店などに手続きを依頼した場合は、念のため手続きの完了を確認しましょう。

産業再生特区制度による税制の特例

復興推進計画の対象となる区域で、対象となる事業を行う事業者が、県の指定を受けることにより、税制上の特例を受けることができます。

【特例の内容】

- ①雇用減税  
雇用者などの給与額に応じ、5年間法人税を最大20%控除
- ②設備投資減税  
建物または機械・装置などを取得した場合、法人税の最大20%控除や固定資産税の減免など

産業再生特区  検索

[問]県庁産業再生課 019-629-6931

沿岸市町村で起業や新事業にチャレンジしたい方を支援します

県では、沿岸市町村で、起業を考えている方や新事業への進出にチャレンジする方を総合的に支援する「さんりくチャレンジ推進事業」を実施しています。クラウドファンディングを活用した資金調達をはじめとする助言や指導により、起業者を支援します。

さんりくチャレンジ推進事業  検索

[問]県庁産業再生課 019-629-6930

！ ご利用ください

くらしとお金のセミナー＆相談会

県では、金融やライフプランに関する正しい知識を身に付けていただくため、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会岩手支部と共催で、毎月第4日曜日に「くらしとお金のセミナー＆相談会」を開催しています。セミナー終了後には、各回6組を対象に個別相談も行っています。参加は無料です。開催日直前の金曜日までに予約をお願いします。

[問]県立県民生活センター  
019-624-2586

小児慢性特定疾病児童等自立支援センター

小児慢性特定疾病児童等自立支援センターでは、慢性的な疾病により、長期の療養を必要とするお子さんの健全な育成や自立を支援しています。お子さんや家族が抱えているさまざまな問題を一緒に考えながら、必要な情報を提供し、各種機関との連絡調整を行います。専門の相談員が電話やメール、個別面談により相談をお受けします。お気軽にご相談ください。

[問]岩手県小児慢性特定疾病児童等自立支援センター 019-637-7878

介護サービス情報公表システム

利用者が介護サービスや事業所・施設を比較して選べるよう、各都道府県が必要な情報を提供しています。インターネットで、地域や市町村ごとに、事業所が提供するサービスの内容や利用料などの詳細な情報を入手することができます。お気軽にご利用ください。

介護事業所検索 岩手  検索

[問]県庁長寿社会課 019-629-5435

募集しています

「県南レジェンドランナーズ2019シリーズ」エントリー受け付け中！

県南地域で開催される9つのマラソン大会と台湾の1つの大会のうち、1年間でいくつの大会に出場し完走できるかを競うイベントです。参加登録者全員に大会などで身に付けられるシリコンバンドをプレゼントするほか、出場・完走回数に応じて記念品を贈呈します。速さや距離は問いません。皆さんのエントリーをお待ちしています。

県南レジェンドランナーズ  検索

[問]県南広域圏スポーツ等連携事業実行委員会 0197-22-2812

ご協力ください

郷土資料・震災資料の収集について

県立図書館では、郷土資料や東日本大震災津波に関する資料を広く収集して保存し、皆さんに活用いただいています。

岩手県在住または出身者の著作、岩手県に関する資料、東日本大震災津波に関する資料を発行されましたら、当館にご寄贈ください。岩手県の貴重な資料として、後世に引き継いでいきます。

岩手県立図書館 利用案内  検索

[問]県立図書館 019-606-1730

県職員の給与等のあらまし

県職員の給与は、県議会での予算や給与条例の審議、県人事委員会の給与勧告などを通じて明らかにされていますが、県民の皆さんに、より一層の理解をいただくため、そのあらましをお知らせします。

1 給与費の状況 (平成30年度普通会計予算)				
職員数	給与費			-1割切り 給与A
	給料	職員手当	計 B	
人	千円	千円	千円	千円
20,147	85,768,968	49,197,781	134,966,749	6,699

※1 知事・議員などの特別職の職員や非常勤の職員に支払われる給与、共済組合、公務災害補償の負担金などは含まれていません。  
※2 職員手当には、退職手当および児童手当は含まれていません。

2 給与 (平成30年4月1日現在)						
○一般行政職の初任給・平均給料月額・平均年齢の状況			○特別職の給料等の状況			
区分	初任給	平均給料月額	平均年齢	区分	知事	副知事
大卒	182,300円	324,320円	43.3歳	給料月額	1,230,000円 (1,168,500円)	950,000円 (921,500円)
高卒	149,900円			期末手当	6月期 1.625月分 計 3.35月分	12月期 1.725月分

※ 初任給は、平成30年度の改定後の額です。  
※ 平成30年4月1日現在、知事は5%、副知事は3%給料の減額を行っています。( )内の額は減額後の額です。

3 職員定数				
○部門別職員数の状況と主な増減理由 (各年4月1日 単位:人)				
部門	平成30年	平成29年	増減数	主な増減理由
一般行政	4,357	4,350	7	ラグビーワールドカップ2019™開催準備による増など
特別行政	14,306	14,336	△30	児童、生徒数の減少による減など
公営企業等	5,178	5,132	46	看護体制の維持および診療体制の強化による増など
合計	23,841	23,818	23	

詳細は、県ホームページをご覧ください。

岩手県人事行政の運営等の状況  検索

[問]県庁人事課 019-629-5079

震災からの歩み (主なもの) 平成30年11月～

- 11月 17日 「いわて三陸復興フォーラムin埼玉」開催
- 29日 復興支援道路「一般国道340号」立丸峠工区開通
- 12月 16日・17日 「いわて三陸復興フォーラム」開催
- 17日 陸前高田市の気仙大橋が本設橋に切り替え
- 19日 釜石市の東部地区浜町復興公営住宅が完成  
市内の全災害公営住宅の整備が完了
- 21日 山田町の災害公営住宅飯岡団地が完成  
町内の全災害公営住宅の整備が完了
- 1月 12日 三陸沿岸道路大槌IC-山田南IC開通

【被害状況】1月31日現在

- 死者5,140人(震災関連死467人を含む)
- 行方不明者1,114人(うち死亡届の受理件数1,104件)

放射線影響対策のお知らせ No.30

野生山菜を採取する際の留意点

県では、市町村と連携して野生山菜の放射性物質濃度検査を行っています。検査の結果、一般食品の基準値(100ベクレル/kg)を超えた場合、市町村の単位ごとに出荷制限などの措置が行われています。野生山菜を採る際は、県ホームページを参考にしてください。

山菜の出荷制限などの状況 (平成31年2月12日現在)

品目名	対象地域
コシアブラ	盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、釜石市、奥州市、住田町
ゼンマイ	一関市、奥州市、住田町
ワラビ*	一関市、陸前高田市、釜石市、奥州市、平泉町
セリ*	奥州市
タケノコ	一関市、陸前高田市(旧矢作村、旧横田村の区域に限る)、奥州市
コゴミ*	陸前高田市
タラノメ*	一関市
ミズ*	一関市
サンショウ*	奥州市

\*野生

[問]【放射性物質濃度検査】県庁県民くらしの安全課 019-629-5322

【出荷制限など】県庁林業振興課 019-629-5770

【全般】県庁環境生活企画室 019-629-6815

広聴広報ガイド

県ホームページ  
http://www.pref.iwate.jp/



ご意見・ご提言はこちら

手紙・はがき 〒020-8570 (住所不要)  
岩手県広聴広報課

電子メール koucho@pref.iwate.jp

電話 019-629-5110

受付時間 8:30~17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

F A X 019-651-4865 [24時間受付]



そばっちが、  
いわてのことをつばやくよ!  
みんな拡散してね!

「いわてグラフ」の気になる情報や暮らしに役立つ情報を、そばっち独自の切り口で楽しくご紹介!取材に同行して県内を飛び回り、現場の臨場感を熱く!? お伝えします。

岩手県広聴広報課  
ツイッター・フェイスブックはこちら!



県政テレビ番組  
「いわて!わんこ広報室」  
毎週放送中!!

- テレビ岩手  
月曜日 18:54~19:00  
(再放送)土曜日 21:54~22:00
- 岩手めんこいテレビ  
水曜日 21:54~22:00
- 岩手朝日テレビ  
水曜日 23:15~23:20
- IBC岩手放送  
木曜日 18:55~19:00

※都合により放送時間変更になることがあります。

## 「いわて消防団 応援の店」に登録しませんか。

県では、消防団を応援するため、特典や割引などのサービスを提供していただく「いわて消防団応援の店」登録店舗を募集しています。

### 登録店舗と提供サービスの例

- ・飲食店（ドリンク1杯無料）
- ・自動車整備工場（車検や法定点検時のエンジンオイル交換無料）
- ・旅行代理店や旅館（旅行・宿泊料金割引）
- ・家電量販店やドラッグストア（ポイント付与）

### サービスの提供方法

- ・登録店舗であることが分かるように県が配布する表示証の掲示をお願いします。
- ・団員が提示する「消防団員カード」を確認して、サービスを提供してください。

お問い合わせ先  
県庁総合防災室  
019-629-5151



## いわて ハッピーライフ



盛岡市在住。『Eleganceイブ』やWEBなどで作品を多数発表。代表作は『レモネード』『ピースを探せ』など。若手の魅力を発信する『コミックいわて』にも漫画を執筆。

Vol. 5  
消防団を応援しよう!!  
の巻

暮らしに役立つ情報や県の取り組みをご紹介します!

## アンケート&プレゼント

- 記事は分かりやすかったですか？(番号で回答)  
 ①非常に分かりやすい ②分かりやすい ③普通 ④分かりにくい ⑤非常に分かりにくい ※④または⑤の方は、どのような点が分かりにくかったかお書きください。
- 今回の企画に興味を持ったものは何ですか？
- 身の回りで知りたい分野は何ですか？(番号で回答・複数回答可)  
 ①産業 ②医療・福祉 ③防災 ④教育 ⑤環境 ⑥社会資本整備 ⑦その他 ※⑦その他の方は、関心があるものをお書きください。
- 本誌へのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。



**A**  
ブルーベリーカレー (岩手町) **3名様**  
岩手町産のブルーベリーが粒のまま入った、オリジナルカレー。果実の甘酸っぱさが辛味を抑え、すっきりとした味わいです。お一人様2パック。  
【問】道の駅「石神の丘」0195-61-1600



**B**  
ウニ染めハンカチ (洋野町) **5名様**  
廃棄される洋野町のウニ殻を有効活用。岩手大学の学生たちが、新たにウニ染めの技術を開発し、淡いピンク色のハンカチを作りました。  
【問】岩手大学学内カンパニー工房彩縁(起業家支援室) 019-621-6407

### アンケートにお答えいただいた皆さまの中から抽選で合計8名様にプレゼント。

住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号・ご希望のプレゼントのアルファベット記号(AまたはB)をお書きの上、はがき、FAX、電子メール、または右の二次元バーコードを読み込んで、応募フォームからご応募ください。  
 ■送り先 ○はがき 〒020-8570(住所不要) 岩手県広聴広報課「いわてグラフ3月号・読者アンケート」係  
 ○FAX 019-651-4865 ○電子メール kouhou@pref.iwate.jp ■応募締切/2019年3月25日(月)当日消印有効 ■当選発表/商品の発送(3月下旬ごろ)をもって代えさせていただきます。



※ご記入いただいた個人情報やアンケートの内容につきましては、厳正な管理の下で取り扱い、アンケート集計、プレゼントの発送にのみ利用させていただきます。  
 いわてグラフは岩手県が制作する広報誌です。517,000部作成し、県内全世帯に配布しています。1部当たりの単価は、約17円です。